

高校時代を思い出すたび いつも鶴川千里先生がいる



栗下修一（高21回）

●くりした・しゅういち

泰阜出身、鼎中卒。1974年千葉大（社会学専攻）卒。毎日新聞で広告、事業に従事して42年。イオン1%クラブで4年間社会貢献活動に携わる。昨年から週1回泳いでいる。

飯田高校入学式翌日、水泳班に入つて卒業まで3年間所属した。水泳班の顧問は「夏が来たか」と飯高的プールにヨックモック溺れるステテコシャンシャン…と飯高四季歌に謳われた鶴川千里先生で、クラブでも授業でもお世話になつた。水泳の指導を受けた記憶はないが、いくつか先生を鮮明に覚えていることがある。（イビキにまいった）1年生の時、私はバ

タフライ200mで県大会に出場した。会場の上田まで、飯田線で諏訪まで行きバスに乗り換えて和田峠を越えて行つた。宿で私は鶴川先生と同室だった。翌朝、先生は不機嫌だった。「もう、栗下とは部屋を別にする」と。どうも私が大いにキ

をかいたらしい。以後、遠征で先生と同室になったことはない。その時の南信大会で200mバタ出場者は飯田高校から2人だけ。泳ぎ切れば県大会出場だった。
（デール掃除で鯉がブカブカ）当時のプールは25m、プールの半分が水深最大3mぐらいたつた。循環浄水装置などなく、満水になつた

1か月くらいい入れっぱなし。7月になると全校生徒1000人余りが授業で泳ぐのだから、水質の程度は想



鶴川先生を囲む水泳班の記念写真から（左端が筆者=1969年）

像がつくだろう。鶴川先生がよく、ミヨウパンや塩素をまいて、病気にならないように気遣つてくれていた。

プール掃除は水泳班の仕事で、高松バーンのアンバタ2個がご苦労賛だった。年に3回ぐらいしかやらなかつたと思う。いつか覚えがないが、掃除で水を抜き川に流したところ、下流の田んぼに放していた鯉が浮かんで大騒ぎになつた。鯉が浮かぶ水で我々が泳いでいたことを思うと、複雑な心境にならざるをえない。

（煙充満の教室）鶴川先生の体育の授業を校庭でも教室でも受けている。ある冬の午前、薪ストーブをくすぶらせ視界数センチぐらいの教室にして、先生の登壇を待つた。ツルさ（と敢えて呼ばせていただいて）が教室に入ると当然のことく一喝。窓全開を指示し、寒風吹きすさぶ中、震えながら授業が続けられた。ツルさも相当「やせ我慢」していたに違いない。

鶴川千里先生略歴

松本市出身。日本体育会体操学校（現日本体育大学）に進学し、二二六事件（1936年）の日に東京で卒業試験を受けた。保健体育教師として、大阪や諏訪などの学校で勤務した後、51年1月に飯田高松高校（現飯田高校）に着任、80年3月まで29年余にわたり勤務した。